

# 戸山

新宿区立戸山小学校

## 戸山小での三年を経て思うこと

副校長 矢島 直子

先日、昼頃に学校から出掛ける用事がありました。新大久保駅へと続く通りに出ると、大型バスが数台停車しており、スーツケースを片手に外国人観光客と思われる方々が、次々と降車してきました。きっと、これが3年前の新大久保駅周辺の日常であったのだろうと、インバウンドを感じる瞬間でした。

さて、私が戸山小に着任したのはちょうど3年前のことになります。内示を受け、3月に戸山小を訪れました。新型コロナウイルス感染症予防のロックダウンが始まったころです。新大久保という地名は、うわさでよく聞く外国街ではありましたが、いざ、大久保駅で下りてみると、街を闊歩する人の波は少ないように感じました。やがて臨時休校とともに令和2年度が始

本来の姿より街は静かでしたが、戸山小に通う子ども達は元気いっぱい。外国にルーツをもつ子ども達もたくさん在籍していました。人数が多いというだけでなく、多国籍という言葉がぴったりで、本当に様々な国の子供たちが通う小学校で、とても驚きました。また、どの子ども達も多文化を当然のこととして受け入れ、何も変わらずに共生していることに温かさを感じました。その時私は、さらにお互いが異文化の理解を深めるための体験活動、例えば、外国関係の保護者の方々にお国の料理、歌や遊びなどの文化を教えてください活動させたいと考えました。しかし、コロナ禍による感染対策によって、現在も実践することができていません。また、外国関係の保護者の方から、外国の子ども達との交流会などのお声掛けをいただいたりもしておりますが、それも実現できていません。

「異文化交流、多文化理解教育」は、未来を担う子ども達、世界で活躍する人材の育成をするために、今、最も必要な教育です。戸山小だからこそ設けることのできる体験の場を、ぜひ実現させたいと思っています。その日は、もうすぐそこまで来ていることを期待します。

## 校内研究

研究主任 矢浦 直子

昨年度に引き続き本校の研究主題は、「言葉を豊かにし、自分の考えや思いをもち表現できる児童の育成～国語科指導法の充実～」です。本校には13か国もの児童が在籍し、仲良く一緒に学習しています。校内で使用する共通言語はもちろん日本語になりますが、コミュニケーション能力の向上が必要とされている現代、私たち教員は「言葉」の重要性を様々な場面で感じており、この研究主題を設定しました。東京都の「授業改善推進拠点校」に指定され、昨年度は「言葉を豊かにする」、今年度は「自分の考えや思いをもつ」ことに重点を置いて研究を進めてきました。そこで国語科を指導する際、どの児童も45分間集中して国語科に取り組むことができることを目指し、その導きとなる「戸山スタンダード」を教員で作成しました。これにより、どの学年でも同じように国語科を学習することができ、ステップアップがわかりやすくなりました。

次年度はこの研究のまとめとなります。研究

をご覧ください。

## 子供を笑顔にするプロジェクト

「子供を笑顔にするプロジェクト」は、感染症対策の観点から、学校生活にさまざまな制約を受けている子供たちに向けて、「見る・聞く・触れる」体験を提供し、笑顔を取り戻してもらうことを目的にしたプロジェクトです。都内の公立・私立小中高等学校、特別支援学校を対象に、多様な体験活動の機会を提供しています。

戸山小学校では、2月21日に、サイエンスショーを実施していただきます。また、5・6年生は3月にワールドベースボールクラシクの観戦を予定しています。

## 2・3月の給食費について

2・3月の給食費は、2か月分をまとめて、2月10日(金)に引落します。前日までにご入金をお願いします。各学年の引し金額については、給食だより(献立表の裏面)をご確認ください。